

発表項目 (行事名)	令和元年度(2019年度)第1回タンチョウ越冬分布調査の結果について																						
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者																					
		発表場所																					
	<p>令和元年度(2019年度)第1回タンチョウ越冬分布調査を次のとおり実施しました。</p> <p>1 調査実施日時等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和元年度(2019年度)第1回</th> <th>平成30年度(2018年度)第1回</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>調査日時</td> <td>12月5日(木) 8:50~9:10</td> <td>12月5日(水) 8:50~9:10</td> </tr> <tr> <td>調査区域</td> <td>9 振興局41市町村</td> <td>8 振興局37市町村</td> </tr> <tr> <td>調査箇所</td> <td>計313箇所(野生310箇所)</td> <td>計322箇所(野生319箇所)</td> </tr> <tr> <td>調査協力者</td> <td>小・中学生など計391人</td> <td>小・中学生など計365人</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 タンチョウ確認羽数 (単位:羽)</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>令和元年度(2019年度)第1回</td> <td>合計:1,251【成鳥:1,014、幼鳥:123、不明:78、飼育個体:36】 野生個体:1,215(釧路:1,038、十勝:138、根室:24、林ツク:4、日高:6、胆振:2、空知2、留萌1(留萌の確認羽数は、住民の方からの情報提供によるものです。))</td> </tr> <tr> <td>平成30年度(2018年度)第1回</td> <td>合計:1,054【成鳥:897、幼鳥:113、不明:6、飼育個体:38】 野生個体:1,016(釧路:756、十勝:196、根室:51、林ツク:2、宗谷:5、胆振:3、空知3)</td> </tr> </tbody> </table> <p>3 調査結果に対する有識者(正富 宏之 専修大学北海道短期大学名誉教授)のコメント概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年は広く道北、道東、道央に分布が見られたが、今年は道東釧路に集中。 ○ 羽数は12月調査としては最多。12月調査より通常多い数を記録する1月調査の過去最多に次ぐ記録数。 ○ 今年初めて釧路以外で小学校が調査に参加。他の地域でも小学校の参加を強く呼びかけたい。 				令和元年度(2019年度)第1回	平成30年度(2018年度)第1回	調査日時	12月5日(木) 8:50~9:10	12月5日(水) 8:50~9:10	調査区域	9 振興局41市町村	8 振興局37市町村	調査箇所	計313箇所(野生310箇所)	計322箇所(野生319箇所)	調査協力者	小・中学生など計391人	小・中学生など計365人	令和元年度(2019年度)第1回	合計:1,251【成鳥:1,014、幼鳥:123、不明:78、飼育個体:36】 野生個体:1,215(釧路:1,038、十勝:138、根室:24、林ツク:4、日高:6、胆振:2、空知2、留萌1(留萌の確認羽数は、住民の方からの情報提供によるものです。))	平成30年度(2018年度)第1回	合計:1,054【成鳥:897、幼鳥:113、不明:6、飼育個体:38】 野生個体:1,016(釧路:756、十勝:196、根室:51、林ツク:2、宗谷:5、胆振:3、空知3)	
	令和元年度(2019年度)第1回	平成30年度(2018年度)第1回																					
調査日時	12月5日(木) 8:50~9:10	12月5日(水) 8:50~9:10																					
調査区域	9 振興局41市町村	8 振興局37市町村																					
調査箇所	計313箇所(野生310箇所)	計322箇所(野生319箇所)																					
調査協力者	小・中学生など計391人	小・中学生など計365人																					
令和元年度(2019年度)第1回	合計:1,251【成鳥:1,014、幼鳥:123、不明:78、飼育個体:36】 野生個体:1,215(釧路:1,038、十勝:138、根室:24、林ツク:4、日高:6、胆振:2、空知2、留萌1(留萌の確認羽数は、住民の方からの情報提供によるものです。))																						
平成30年度(2018年度)第1回	合計:1,054【成鳥:897、幼鳥:113、不明:6、飼育個体:38】 野生個体:1,016(釧路:756、十勝:196、根室:51、林ツク:2、宗谷:5、胆振:3、空知3)																						
参 考	今年度第2回目の調査は令和2年(2020年)1月24日(金)に実施する予定です。																						
報道(取材)に当たってのお願い	<p>第1回調査では、地元の小・中学校の児童生徒をはじめ多くの方々の御協力をいただいております。</p> <p>また、平成29年度から北海道と包括連携協定を締結している日本航空株式会社(JAL)と協働で調査を実施しておりますので、積極的な報道をお願いします。</p>																						
他のクラブとの関係	<table border="1"> <tr> <td>同時配付</td> <td rowspan="2">: 下記の(総合)振興局で配付します。</td> </tr> <tr> <td>同時レク</td> </tr> </table>			同時配付	: 下記の(総合)振興局で配付します。	同時レク																	
同時配付	: 下記の(総合)振興局で配付します。																						
同時レク																							
担 当 (連絡先)	<p>環境生活部環境局生物多様性保全課生物多様性戦略グループ 担当:坂村(ダイヤル:011-204-5987 又は 代表:011-231-4111 内線24-389) ※ 個別の調査内容については、次の(総合)振興局までお問い合わせ願います。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>電話番号</th> <th>区 分</th> <th>電話番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>空知総合振興局</td> <td>0126-20-0043</td> <td>林ツク総合振興局</td> <td>0152-41-0630</td> </tr> <tr> <td>胆振総合振興局</td> <td>0143-24-9577</td> <td>十勝総合振興局</td> <td>0155-26-9028</td> </tr> <tr> <td>日高振興局</td> <td>0146-22-9254</td> <td>釧路総合振興局</td> <td>0154-43-9154</td> </tr> <tr> <td>宗谷総合振興局</td> <td>0162-33-2922</td> <td>根室振興局</td> <td>0153-23-6823</td> </tr> </tbody> </table>			区 分	電話番号	区 分	電話番号	空知総合振興局	0126-20-0043	林ツク総合振興局	0152-41-0630	胆振総合振興局	0143-24-9577	十勝総合振興局	0155-26-9028	日高振興局	0146-22-9254	釧路総合振興局	0154-43-9154	宗谷総合振興局	0162-33-2922	根室振興局	0153-23-6823
区 分	電話番号	区 分	電話番号																				
空知総合振興局	0126-20-0043	林ツク総合振興局	0152-41-0630																				
胆振総合振興局	0143-24-9577	十勝総合振興局	0155-26-9028																				
日高振興局	0146-22-9254	釧路総合振興局	0154-43-9154																				
宗谷総合振興局	0162-33-2922	根室振興局	0153-23-6823																				

令和元年度(2019年度)第1回タンチョウ越冬分布調査の結果について

1 調査の趣旨

本調査は、絶滅危惧種のタンチョウの越冬分布・規模の把握等を目的に、地元小・中学校や関係機関等のご協力のもと、調査の基礎的な手法やタンチョウ保護の歴史について学ぶことができるよう調査を進め、見られた場所、個体数を記録しました。

2 調査日時

令和元年(2019年)12月5日(木) 午前8時50分～9時10分

3 調査区域及び調査箇所

- (1) 調査区域 9(総合)振興局、41市町村管内のタンチョウ生息地及び飛来地全域
- (2) 調査箇所 合計313箇所

○調査地点所在市町村数の推移

(市町村)

振興局	令和元年度		平成30年度		平成29年度	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
釧路	8		8	8	8	8
十勝	11		11	11	10	7
根室	4		4	3	4	3
オホーツク	4		4	3	4	2
宗谷	4		2	-	2	-
日高	2		2	2	2	2
胆振	4		3	3	1	-
空知	3		3	1	1	1
留萌	1		-	-	-	-
合計	41		37	31	32	23

○調査箇所数の推移

(箇所)

振興局	令和元年度		平成30年度		平成29年度	
	第1回	第2回	第1回	第2回	第1回	第2回
釧路	174		168	158	143	151
十勝	71		91	46	42	38
根室	21		22	7	21	6
オホーツク	14		13	5	13	2
宗谷	4		2	-	3	-
日高	6		6	7	6	7
胆振	13		11	14	5	-
空知	9		9	2	2	2
留萌	1		-	-	-	-
合計	313		322	239	235	206

4 調査主体及び調査協力機関等

(1) 調査主体

北海道(環境省委託)

(2) 調査協力機関等

市町村、市町村教育委員会、釧路市動物園、小・中学校、日本航空株式会社、タンチョウ給餌人など

○調査協力者数

振興局	総計(人数)	内 訳						教職員	一般
		小学校		中学校		(小計)			
		校数	児童数	校数	生徒数	校数	児童・生徒		
釧路	297	8	51	5	87	13	138	48	111
十勝	21					0	0		21
根室	22					0	0		22
オホーツク	0					0	0		0
宗谷	5					0	0		5
日高	2					0	0		2
胆振	6					0	0		6
空知	37	1	29			1	29	2	6
留萌	1					0	0		1
合計	391	9	80	5	87	14	167	50	174

※本庁、振興局職員を除く。

5 タンチョウ確認羽数（振興局別）

(羽)

振興局	令和元年度第1回				令和元年度第2回			
	成鳥	幼鳥	不明	計				
釧路	864	96	78	1,038				
十勝	114	24		138				
根室	21	3		24				
オホーツク	4			4				
宗谷	0	0	0	0				
日高	6			6				
胆振	2			2				
空知	2			2				
留萌	1			1				
小計	1,014	123	78	1,215				
飼育個体	36			36				
合計	1,050	123	78	1,251				

<過去2カ年実績>

(羽)

振興局	平成30年度第1回				平成30年度第2回				平成29年度第1回				平成29年度第2回			
	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計	成鳥	幼鳥	不明	計
釧路	669	81	6	756	761	114	13	888	457	53	28	538	949	93	0	1,042
十勝	171	25	0	196	84	7	0	91	59	8	0	67	44	2	0	46
根室	46	5	0	51	8	2	0	10	8	1	0	9	8	1	0	9
オホーツク	2	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0
宗谷	4	1	0	5	-	-	-	-	0	0	0	0	-	-	-	-
日高	0	0	0	0	2	1	0	3	2	1	0	3	4	1	0	5
胆振	2	1	0	3	0	0	0	0	1	0	0	1	-	-	-	-
空知	3	0	0	3	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	-	0
小計	897	113	6	1,016	856	124	13	993	529	63	28	620	1,005	97	0	1,102
飼育個体	35	3	0	38	35	3	0	38	32	1	0	33	33	2	0	35
合計	932	116	6	1,054	891	127	13	1,031	561	64	28	653	1,038	99	0	1,137

※「-」は調査を実施しなかったもの。「0」は調査を実施したが確認できなかったもの。

※各年度の確認羽数の推移については別添グラフ参照。

6 調査当日の気象状況

○令和元年度第1回調査（令和元年12月5日 午前9時）

振興局	天候	気温	風向	風速	備考
釧路	快晴	-2.0℃	西	6.2 m/s	釧路地方気象台
十勝	晴	-2.7℃	西北西	4.7 m/s	帯広測候所
根室	晴	-2.5℃	西南西	7.1 m/s	釧路地方気象台
オホーツク	晴	-2.3℃	西	5.0 m/s	網走地方気象台
宗谷	曇	-3.6℃	西北西	3.5 m/s	稚内地方気象台
日高	晴	-3.3℃	北西	3.1 m/s	室蘭地方気象台
胆振	晴	-3.0℃	北北西	3.9 m/s	室蘭地方気象台
空知	晴	-5.1℃	南南東	1.7 m/s	札幌管区気象台
留萌	雪	-2.8℃	西北西	9.2 m/s	旭川地方気象台

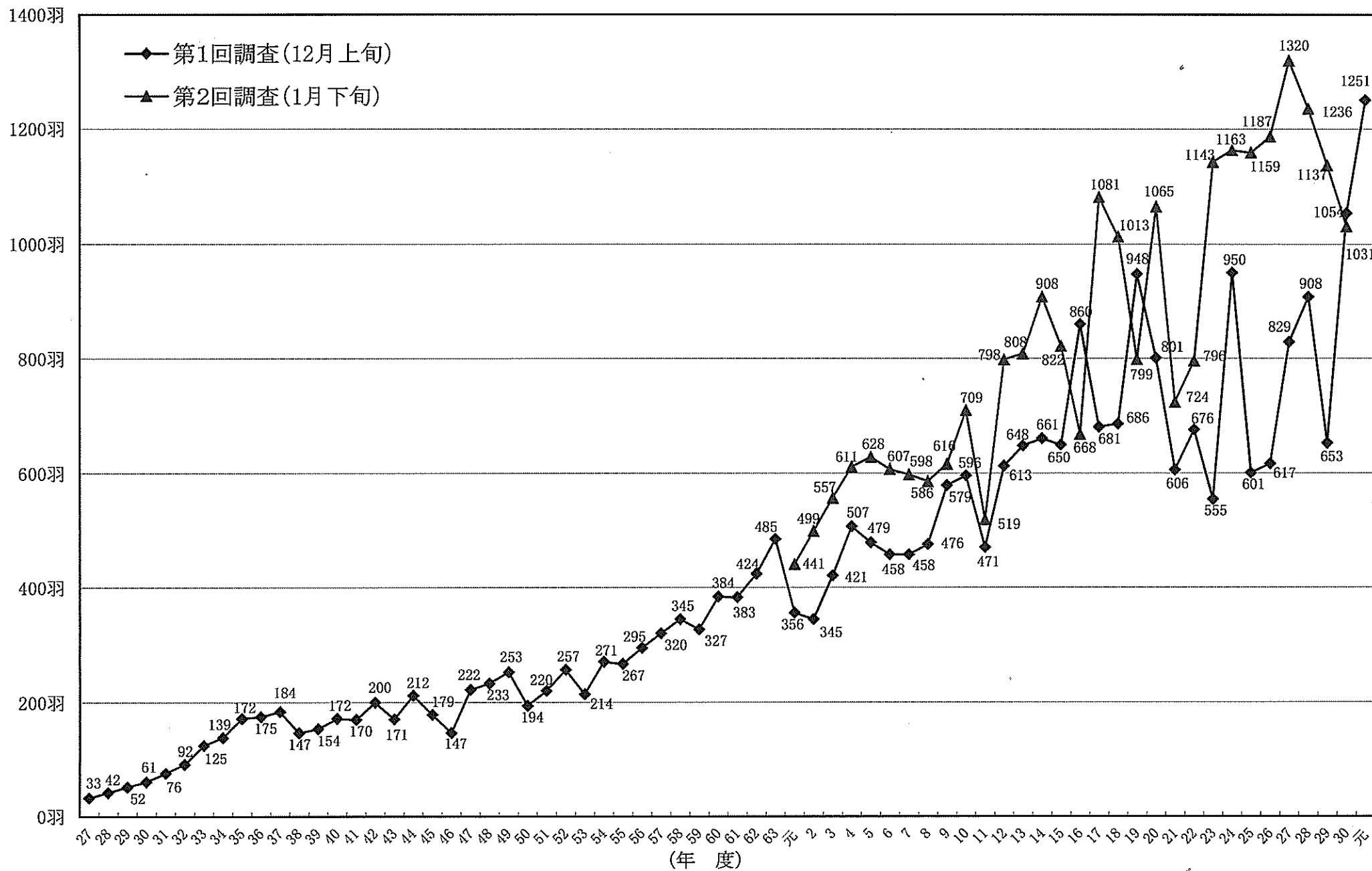
※<参考>平成30年度第1回調査（平成30年12月5日 午前9時）

振興局	天候	気温	風向	風速	備考
釧路	晴	8.7℃	西	8.8 m/s	釧路地方気象台
十勝	晴	6.8℃	北西	5.9 m/s	帯広測候所
根室	雨	6.9℃	北北西	8.6 m/s	釧路地方気象台
オホーツク	雨	4.1℃	北西	5.7 m/s	網走地方気象台
宗谷	曇	-0.2℃	北西	4.3 m/s	稚内地方気象台
日高	晴	5.8℃	西北西	9.6 m/s	室蘭地方気象台
胆振	晴	6.0℃	西	7.9 m/s	室蘭地方気象台
空知	みぞれ	1.6℃	北北西	6.1 m/s	札幌管区気象台

※<参考>平成29年度第1回調査（平成29年12月5日 午前9時）

振興局	天候	気温	風向	風速	備考
釧路	雪	0.6℃	北北東	8.5 m/s	釧路地方気象台
十勝	雪	-1.2℃	北西	2.6 m/s	帯広測候所
根室	雪	0.8℃	東	7.4 m/s	釧路地方気象台
オホーツク	雪	0.2℃	東	0.9 m/s	網走地方気象台
宗谷	雪	-4.5℃	北北西	0.9 m/s	稚内地方気象台
日高	晴	-0.7℃	北北西	3.5 m/s	室蘭地方気象台
胆振	晴	-2.4℃	北西	4.9 m/s	室蘭地方気象台
空知	曇	-3.1℃	北	2.8 m/s	札幌管区気象台

タンチョウ越冬分布調査（生息状況一斉調査）による各年度の確認羽数の推移（飼育個体含む。）



令和元年12月5日実施のタンチョウ越冬分布調査結果について

正富宏之

今年12月5日に行われた令和元年度第1回タンチョウ越冬分布調査結果について、これまでと同様に、動物園および類似施設の飼育個体を除いた野生個体のみを対象として、コメントを記しておく。

I. 分布状況

A) 今年状況

分布調査の対象とされたのは十勝、釧路、根室、オホーツク、宗谷、日高、胆振、空知、留萌の9振興局（以下振興局を省略）管内の41自治体である。内訳は4市・36町・1村で、そのうちタンチョウが目撃されたのは25市町村あり、割合は調査自治体数の60.9%を示す。さらに、310調査箇所のうち144箇所（調査箇所数の46.5%）でタンチョウが記録されたことになる。

各管内で確認箇所数が最も多かったのは釧路の97箇所、管内観察箇所数に対する割合は56.7%、次いで十勝31箇所、43.7%、根室8箇所、38.1%という順である。全体の中の割合でも釧路が断然多く67.4%、十勝21.5%、根室5.6%であり、この3者で全体の94.4%を占めた。

ツルを目撃した箇所数の多い市町村は、鶴居村の35箇所（総確認箇所数の24.3%）で、阿寒・音別両地区を含む釧路市の32箇所（22.2%）とほぼ並び、標茶町の15箇所（10.4%）、大樹町の7箇所（4.9%）、幕別町と浦幌町がそれぞれ6箇所（各4.2%）と続き、この6市町村で101箇所（70.1%）に達する。前年もこの同じ6市町村が上位を占めたが、釧路の確認箇所数増加に対して十勝の各町で減少しているのが目につく。これに関しての説明は、次項で触れておきたい。

B) 前年（平成30年）との比較と今年の特徴

生息が確認されたのは8管内で、昨年より1管内増えている。しかし、新たに留萌で目撃された個体の状況から、広域的に移動している若齢個体が、短期的に出現したのが偶発的に調査記録とされた性格が強く、明確な分布事例とは内容を異にする。こうした事例はこれまでも散発的ながら、道南・道央をはじめとして道内各地で起きている現象である。もちろん、そうした事例の増加は、全道へのタンチョウ分散の兆候とみなすこともできよう。

今年の一つの特徴は、昨年初めて記録された宗谷で今年は記録がなかった点である。おそらく調査日前の宗谷地方の気候（温度）条件が平年より厳しく、11月上旬から12月初旬にかけて、今年の旬ごとの気温が平年値を1~2度も下回り、そのため越冬地への早期の

移動が促された可能性が高い。たとえば、暖冬の年は12月中旬過ぎまでサロベツ原野にとどまっていた例もあることが一つの証ともいえよう。

この寒冷現象は、道北ほど顕著でないにせよ道東の根室や十勝でもその傾向が認められ、一部には平年よりも一時的に多く降雪があり、このことが採餌等も含めて大給餌場のある釧路への移動促進に働いた可能性がある。しかも、釧路では、11月初旬の寒冷により移動してきた個体を受け入れる11月中旬は、むしろ平年値を上回る気温を示している。そのことが、調査日における釧路の観察箇所数の増加（77から97へ増）、それに対する宗谷の観察箇所数ゼロや、根室・十勝の観察箇所数減少（66から39へ減）と深くかかわると考えられる。

他方、2018年は2017年より大幅に観察箇所数が増えたが、11月上・中旬は全般的に気温も高く、調査日にはプラスさえ記録した。こうした天候条件の違いが、今年（144箇所）と昨年（147箇所）で総観察箇所数がさほど異ならないのに、昨年は広く道北・道東・道央に分布が見られ、今年は道東の釧路へ集中が認められた原因であろう。もちろん分布状況に作用するのは気温だけではないが、主要な要因として考慮しておく必要があり、このことは羽数とも絡むので、次項でも触れたい。

ともあれ、目撃される管内数が2016年ころから増加していることは、とりもなおさず2000年代からタンチョウが道東から道北へ、2010年代からは道央へと分布域を広げていることを明確に示しており、今年もその傾向に変わりはない。

II. 羽数

A) 今回の羽数記録

目撃数は1,215羽で、この中に今年生まれの幼鳥123羽と、成鳥か幼鳥か不明78羽が含まれる。管内別羽数（資料「5タンチョウ確認羽数（振興局別）」参照）は、釧路が最多で全体の85.4%、次いで十勝11.4%、根室2.0%、日高0.5%、オホーツク0.3%、胆振と空知が各0.2%、留萌0.1%の順で、釧路・十勝・根室の3管内で全体の98.8%を占める。

羽数が多く記録された順に市町村を挙げると、1位が阿寒町と音別町を含む釧路市で429（内幼鳥30）羽、次いで鶴居村の303（43）羽、標茶町243（11）羽、大樹町66（14）羽、浜中町43（4）羽、幕別町27（2）羽、厚岸町24（3）羽、弟子屈町17（3）羽、浦幌町16（4）羽、10位が白糠町の15（2）羽である。この結果釧路市の羽数は全体の35.3%を占め、この10市町村で全体の97.4%が記録されたことになる。特に、このなかの7位までに釧路管内の5市町村が含まれ、前年が3市町村であったことから個体の釧路管内への片よりの明確である。

B) 前年との比較を含めた今回の特徴

12月調査として初めて1,000羽を超えた前年（平成30年）の1,016羽よりも、今年はさらに199羽も多く、増加率は19.6%を示し、昭和27（1952）年から始めた12月調査としてこれまでの最多を示した。これは12月調査より通常多い数を記録する1月調査の過去最多（平成28年1月調査1,285羽）に次ぐ記録数である。

この記録の成り立ちについては、いくつかの要因が考えられ、主なものに次の三点が挙げられよう。

一つは、タンチョウの羽数の増加、二つは調査日の天候を含めた観察条件、三つはタンチョウの今年の分布状態などである。

まず、前年より今年は200羽ほどの増加を示したが、これが実質的なタンチョウの羽数増を示すのか、残念ながら明確でない。現在、道内のタンチョウの正確な生息数は得られていないが、1,700羽を越すのはほぼ確実と思われる。しかも、全数に対する幼鳥数の割合から推定して、繁殖率が目立って低下しているとも思えず、継続して多かれ少なかれ増加傾向を保っていると推定される。なお、幼鳥数のより確実な数は1月の調査で明らかになると思われるので、その際に検討の必要があろう。ともあれ、実際の総数が一挙に200羽も増加するとは考えられず、従って、今年の増加には、調査方法上の制約で従来見落とされていた個体が、今年は多く含まれるとみなすべきで、その中に実際の繁殖により増えた個体数がどの程度加わるのか定かでない。

次に、上記と関連するが、調査日の天候条件などが大きく調査成績に関わることは、これまでしばしば起きている。今年は、9管内のうち快晴ないし晴天が7管内、曇（宗谷）と雪（留萌）が各1管内で、気温は全体にやや低かったが、風もさほど強くなく、観察条件としてごく良好な状態であった。しかし、平成29年は8管内のうち主要な道東5管内が雪、残りが曇1、晴2で620羽しか記録されず、平成30年は主要な釧路と十勝は晴れたが、ほかは晴2、雨2、みぞれ1、曇1で1,016羽の記録である。

さらに、分布の項で触れたように、調査日前の気温条件等により、広く分散していた状態から釧路への移動が起きており、その結果として、ある程度限定された地域への集りが生じ、しかもそれが経験豊富な調査員の多い釧路であったため、より確実に分布とカウント調査が行われたと思われる。

結局、以上のようなことが複合して、今回の12月初旬時点における分布状況と個体数把握結果が得られたのであろう。また、三大給餌場では給餌量削減が行われているが、その影響評価がまだ十分でないため、今回の分布・個体数との関連を詳細に検討すべき資料は今のところ得られていない。

III. 提言

（環境教育としての意義）これまで繰り返し提言してきたように、12月の調査の力点の一つは環境教育的意義である。喜ばしいことに、今年初めて釧路以外で児童・生徒の調査参加が記録された。空知の長沼町では舞鶴遊水地を中心に2羽が生息しており、昨年も実質参加されたようであるが、今年は児童がスクールバスを利用して調査しタンチョウを確認した。タンチョウが各地で広く目撃されるようになっていくことを踏まえ、他の地域でもスクールバスなどを活用しての参加を強く呼びかけたい。毎年繰り返すことになるが、道、教育委員会、学校、さらに地域住民など関係者が意思疎通を図り、次回からの参加を強く望みたい。

（調査方法の改善）今年は調査時期にタンチョウがある程度限定された地域へ集まる傾

向を見せたが、通常は広く散らばっていることが多い。そのため限られた人数の調査では見落としが起きがちで、今年もおそらくその事例と思われる情報もある。従って、地域住民の関心向上も含めて、より広く一般住民のボランティア参加が可能な調査システム構築を提案したい。調査は年度内に2回行われるが、12月調査時はまだ気候的にそれほどの厳しさが無いため、さほど高度な知識・記述なしに気軽な参加を望めると思う。調査精度については、多くの方がスマートフォンなど撮影可能な機器を利用されておられるので、映像記録保存で十分賄えよう。

(資料整理) この調査の眼目の一つは、12月初旬時点におけるタンチョウの分布の様相とその年変化である。そのため視覚的に分かりやすい分布図の作成と提示は必要かと思う。生息地点特定化とその公開に問題があるとするならば、メッシュ形式の地図上での提示でも良いかと思う。それにより、その年の分布状況や経年変化が容易に理解できるようになり、調査結果を教育資料として利用することも行いやすくなるだろう。